

## 電気牧柵を使用する際の注意点について

全 域

イノシシ対策で導入している電気牧柵は、非常に効果の高いものですが、設置の仕方、外的な要因で効果が落ちる場合があります。以下のことに注意し、適切な管理を心がけましょう。

### 《設置のポイント》

- ①電牧線の高さは地面から20cm、40cm（3段の場合は60cm）のイノシシの鼻先が当る高さにする。
- ②アースは水分の多い場所に深く打ち込む。（複数のアースはコードを最大限延ばし設置）
- ③イノシシが足を着く位置がコンクリート等の舗装の場合、通常電圧が弱くなる（通常の1/3程度）ため、土の上に足が着くよう設置する。



土で計測した場合【5.8KV】



コンクリートで計測した場合【1.3KV】

### 《管理のポイント》

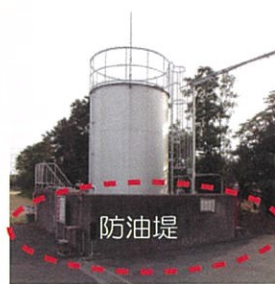
- ①電圧は低下していませんか？テスターでチェックしましょう。（3000Vを下回るとイノシシに効果がなくなるので、4000Vを維持し、下回っていたら充電しましょう。）
- ②草刈りは適宜実施しましょう。草が電牧線に当たると漏電し、バッテリーも消耗します。省力化として電柵の下に防草シートを設置することもあります。電柵用の通電性の高い防草シート以外は、実際にテスターで通電を確認してから設置しましょう。電気は土の水分を伝って流れるため、通常の防草シートは通電を阻害します。
- ③ソーラータイプの電気牧柵でもバッテリーは消耗します。定期的にテスターで確認し、電圧を維持しましょう。
- ④夜だけではなく、日中も通電するようにしましょう。電気牧柵の電流はパルスで流れており、流れていない時間の方が長いので、「ほ場の周囲にあるひも状のものは安全だ」と認識されると正しく設置されている電気牧柵も簡単に進入されます。

## 農業用施設からの油流出事故をなくしましょう！

全 域

近年、県内において農業用施設からの油流出事故が相次いで発生しています。

油流出事故はその回収が大変困難だけでなく、生態系に大きな影響を及ぼすおそれがあります。また、油を流出させた原因者は高額な処理費用を負担することになり、さらに損害賠償を請求されることがあります。



### 事故を未然に防ぐために

- 防油堤を設置する
- 日常的に機器・設備の点検を行う
- 使用しないタンクからは必ず油を抜き取る  
（県知事の許可を受けた産業廃棄物所業者へ委託）
- 万が一に備えて賠償責任保険への加入

万が一事故が発生した場合には、早急に所管の消防署及び市町へ連絡しましょう。

【連絡内容】・発見、発生した日時  
・事故の場所と内容  
・応急処置の状況

長崎県庁ホームページに油流出事故防止パンフレットを掲載しています。

★重油流出事故未然防止チェックリストも活用ください。

長崎県庁 油流出事故防止

検索



こちらからも  
アクセスできます！